資料２

令和６年８月８日
家畜防疫対策室

国内における豚熱の発生状況について

１．飼養豚

○　岐阜県で 26 年ぶりに感染が確認された平成 30 年 9 月以降，発生農場は 21 都県（岐阜県，愛知県，長野県，滋賀県，三重県，福井県，埼玉県，山梨県，沖縄県，群馬県，山形県，和歌山県，奈良県，栃木県，神奈川県，宮城県，茨城県，東京都，兵庫県、佐賀県、岩手県）に拡大して 92 事例が発生。これまでに約 40.3 万頭を殺処分。

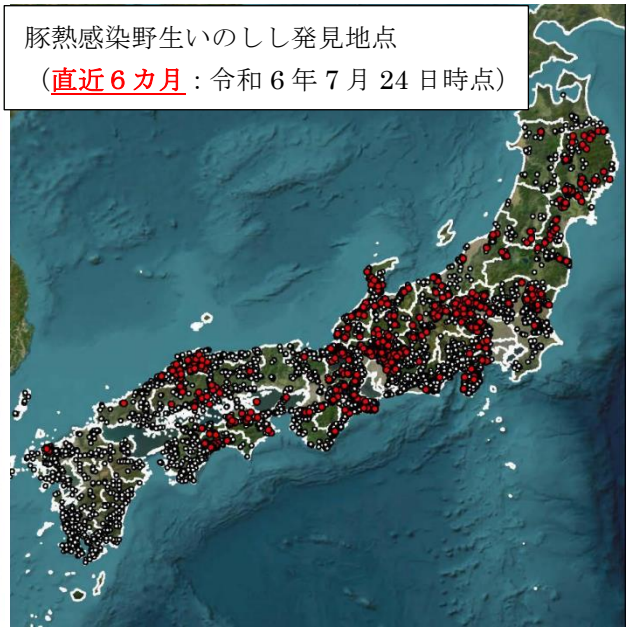
※直近の発生:栃木県：R6.5.26：国内 91 例目/約 16,000 頭
岩手県：R6.5.28：国内 92 例目/約 17,500 頭

２．野生いのしし

○　37 都府県（岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、東京都、神奈川県、新潟県、富山県、石川県、福井県、山梨県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県、徳島県、香川県、高知県、愛媛県、佐賀県）で野生いのししから豚熱感染を確認。

豚熱感染野生いのしし発見地点
（累積：令和６年７月 24 日時点）

豚熱感染野生いのしし発見地点
（直近６カ月：令和６年７月 24 日時点）



農林水産省資料

養豚場での対策

① 飼養豚全頭に対するワクチン接種

② 野生いのしし侵入防止対策(養豚場周囲での防護柵等の設置)

③ 飼養衛生管理基準の遵守（消毒対応等による飼養エリアへのウイルス侵入防止対策）

令和６年８月８日
家畜防疫対策室

アフリカ豚熱の発生状況について

１．　アフリカ豚熱とは

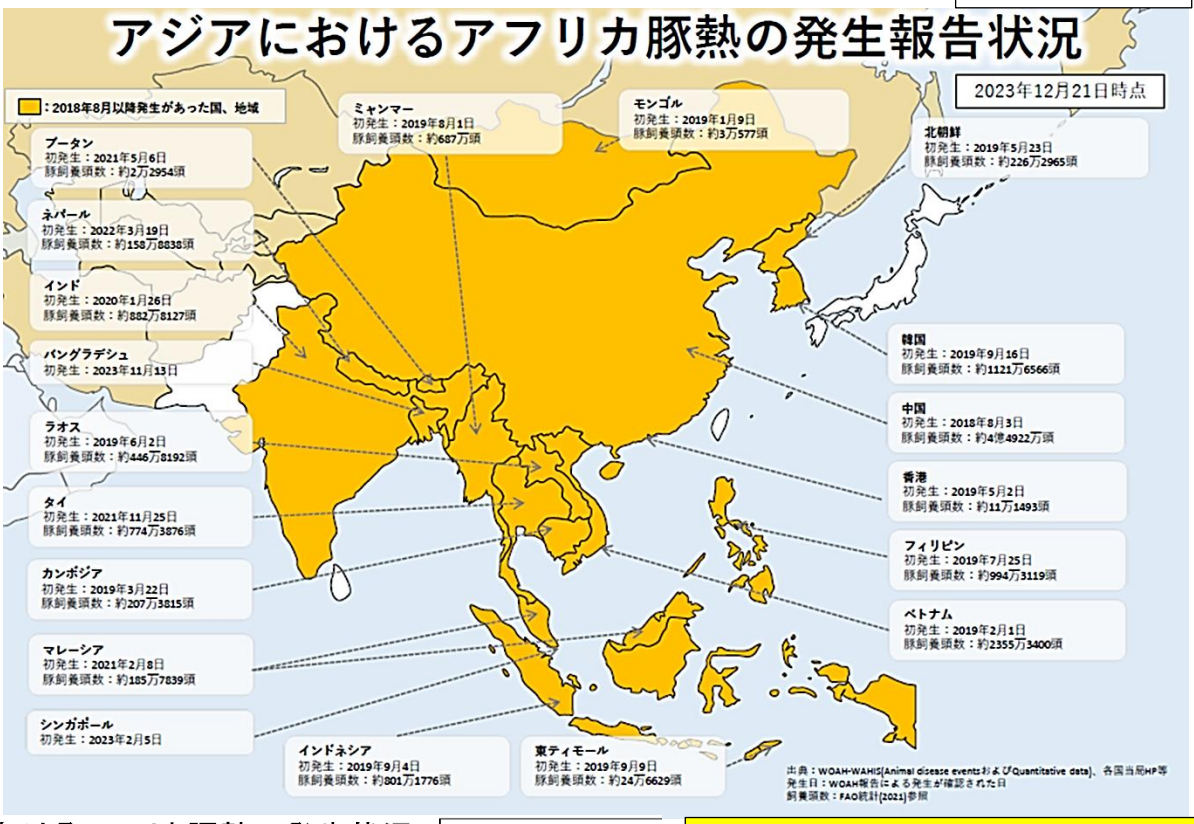
◇アフリカ豚熱（ASF）は、ASF ウイルスが豚やいのししに感染することによる発熱や全身の出血性病変を特徴とする致死率の高い伝染病。（人には感染しない）

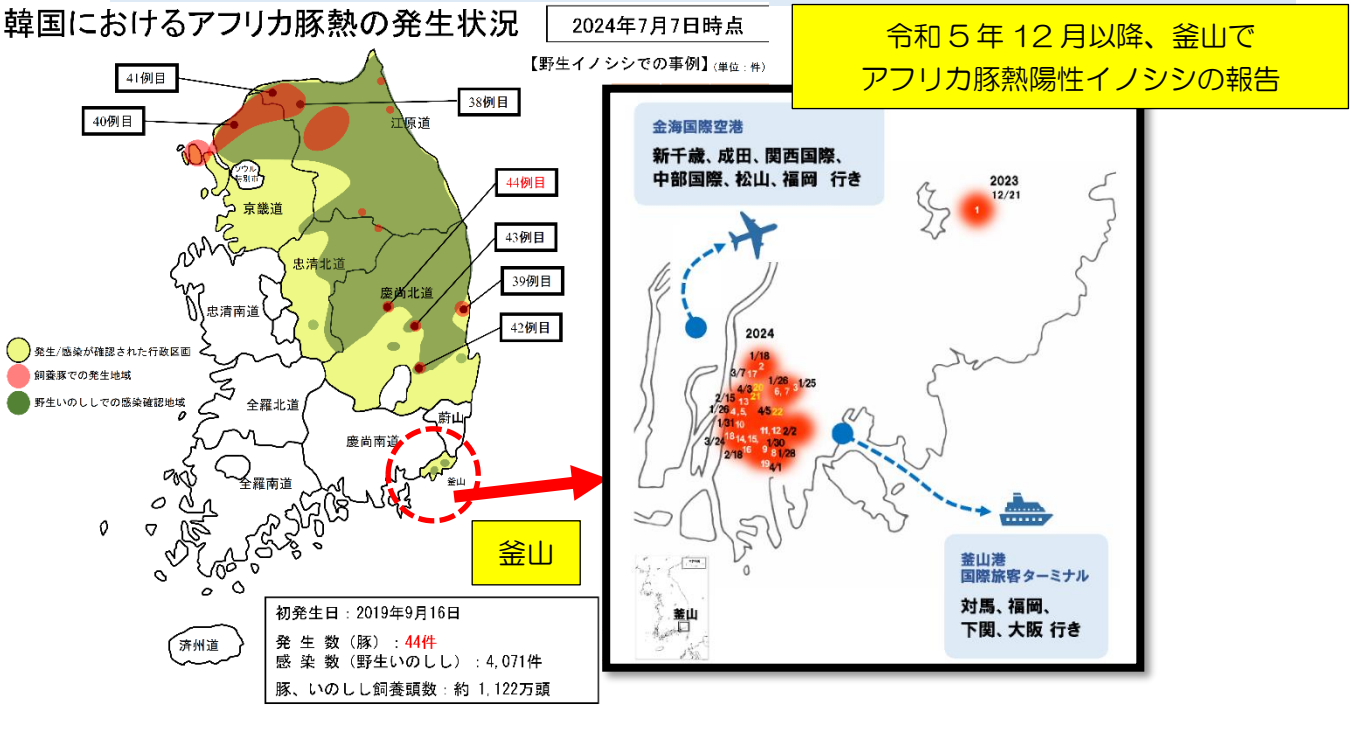
◇日本国内では、これまで本病の（いのししや飼養豚での）発生は確認されていない。

◇アフリカでは常在的に、ロシア及びアジアでも発生が確認されているため、海外からの日本国内への侵入が危惧されている。

◇有効なワクチンや治療法はない。

農林水産省資料





令和 6 年 8 月 8 日
家畜防疫対策室

2.　日本国内における空港検疫での確認事例

◇動物検疫所にて、ASF 発生国からの旅客が所有し、日本の到着空港で輸入が認められなかった豚肉等の一部について ASF ウイルスのモニタリング検査を実施。

◇令和 6 年 4 月末時点で豚肉等から 159 例の ASF 遺伝子陽性事例を確認。（内 4 件でウイルス分離検査陽性）

農林水産省資料

携帯品として持ち込まれる畜産物の検疫対応

携帯品として持ち込まれた畜産物からアフリカ豚熱、高病原性鳥インフルエンザ等の**ウイルスを分離**

モニタリング検査

検査対象：中国、韓国、台湾、フィリピン等からの牛、豚、鶏の筋肉、臓器等

国、地域名	ウイルス名	分離年	株種
中国	鳥インフルエンザ	2015年	H9N2（3株），H1N2（1株），H5N6（1株），H5N1（1株）
		2016年	H5N6（1株）、H7N9（1株），H9N2（1株）
		2017年	H7N9（2株）
		2018年	H7N3（1株），H5N6（2株）
	アフリカ豚熱	2019年	2株
台湾	鳥インフルエンザ	2015年	H9N2（1株）
		2018年	H5N1（1株），H6N1（1株）
フィリピン	ニューカッスル病	2015年	1株
	アフリカ豚熱	2020年	2株
ベトナム	ニューカッスル病	2016年	1株
	鳥インフルエンザ	2016年	H9N2（2株）
		2018年	H5N2（1株），H9N2（1株）
		2019年	H9N2（1株）
ミャンマー	ニューカッスル病	2020年	1株

- 中国、フィリピンから持込まれたソーセージ等の肉製品４件より**アフリカ豚熱のウイルスが分離**
- 中国、ベトナム、ラオス、カンボジア、フィリピン等から持ち込まれた携帯品より、アフリカ豚熱**ウイルスの遺伝子**を検出。

※150件(2024年2月末現在)

自家製ソーセージ
（青島から中部空港）

ソーセージ
（上海から中部空港）

豚肉ソーセージ
（北京から新千歳空港）

自家製餃子
（上海から羽田空港）

ソーセージ
（上海から羽田空港）

ソーセージ
（瀋陽から中部空港）

豚肉調整品
（ハノイから成田空港）

ソーセージ
（延吉から関西空港）

令和６年８月８日
家畜防疫対策室

本県における野生いのししでの豚熱・アフリカ豚熱感染対策について

◇本県においても死亡又は捕獲した野生いのししの豚熱とアフリカ豚熱の両疾病について遺伝子検査を実施。（アフリカ豚熱については、いずれも遺伝子陰性を確認）
（※ジビエ利用（自家消費除く）の捕獲野生イノシシについても、全頭、検査を実施）

▼本県における豚熱遺伝子検査の結果(R６.８.１時点)

野生イノシシにおける豚熱検査

① 死亡（平成30年9月から検査開始）　　令和6年8月1日現在

検査年月	陽性頭数（市町村別）　※括弧内は検査頭数																							計	豚熱陽性率
	仙台市	石巻市	白石市	角田市	登米市	栗原市	大崎市	富谷市	蔵王町	七ヶ宿町	大河原町	村田町	柴田町	川崎町	丸森町	亘理町	山元町	大和町	大衡村	色麻町	加美町	南三陸町		
H30年度	(10)					(1)							(1)	(1)				(1)			(1)		0 (15)	0%
R1年度									(3)				(1)						(2)				0 (6)	0%
R2年度	(1)		(1)			(1)													(1)				0 (4)	0%
R3年度	(4)		6 (7)	1 (2)				(1)	15 (16)	3 (3)	3 (4)	(1)	2 (2)	5 (5)	9 (9)	1 (1)			(1)				45 (56)	80%
R4年度	(3)			1 (1)				1 (1)	1 (1)				1 (1)						1 (1)	1 (1)			6 (9)	67%
R5年度			(1)	(2)			3 (3)								2 (2)			(1)					5 (9)	56%
R6年4月																							0 (0)	—
5月																							0 (0)	—
6月																							0 (0)	—
7月																							0 (0)	—
8月																							0 (0)	—
R6年度小計																							0 (0)	—
計	0 (18)	0 (0)	6 (9)	2 (5)	0 (0)	0 (2)	3 (3)	1 (2)	16 (20)	3 (3)	3 (4)	0 (1)	3 (5)	5 (6)	11 (11)	1 (1)	0 (0)	0 (2)	1 (5)	1 (1)	0 (1)	0 (0)	56 (99)	57%

② 捕獲（令和2年1月から検査開始）

検査年月	陽性頭数（市町村別）　※括弧内は検査頭数																						計	豚熱陽性率
	仙台市	石巻市	白石市	角田市	登米市	栗原市	大崎市	富谷市	蔵王町	七ヶ宿町	大河原町	村田町	柴田町	川崎町	丸森町	亘理町	山元町	大和町	大衡村	色麻町	加美町	南三陸町		
R1年度												(4)			(4)								0 (8)	0%
R2年度			(43)									(44)		(9)	(39)								0 (135)	0%
R3年度	5 (25)		6 (21)	5 (20)		2 (39)	4 (19)		14 (29)	13 (22)		5 (58)		1 (15)	19 (140)						9 (40)		83 (428)	19%
R4年度	5 (21)		8 (63)	3 (17)	2 (13)	5 (33)	(7)		1 (9)	(24)	(8)	4 (46)	3 (9)	(8)	15 (47)	(3)	(2)			(14)	1 (41)		47 (365)	13%
R5年度	3 (13)	(4)	4 (23)	(14)	4 (19)	2 (15)	19 (69)		3 (17)	7 (10)	1 (15)	(17)	(5)	4 (9)	2 (31)	2 (10)	(2)		(5)	(15)	3 (27)	(5)	54 (325)	17%
R6年4月			(1)				(8)					(3)		1 (3)		(1)							1 (16)	6%
5月							1 (6)		1 (1)			(2)											2 (9)	22%
6月			(1)				(7)		(1)			(1)			(1)								0 (11)	0%
7月			(1)	(1)			(14)			(1)		1 (1)			(2)								1 (20)	5%
8月			(1)						(1)													(1)	0 (3)	0%
R6年度小計			(4)	(1)			1 (35)		1 (3)	(1)		1 (7)		1 (3)	(3)	(1)						(1)	4 (59)	7%
計	13 (59)	0 (4)	18 (154)	8 (52)	6 (32)	9 (87)	24 (130)	0 (0)	19 (58)	20 (57)	1 (23)	10 (176)	3 (14)	6 (44)	36 (264)	2 (14)	0 (4)	0 (0)	0 (5)	0 (29)	13 (108)	0 (6)	188 (1320)	14%

野生いのしし豚熱感染確認地点から半径 10km 圏
(令和６年８月１日現在)

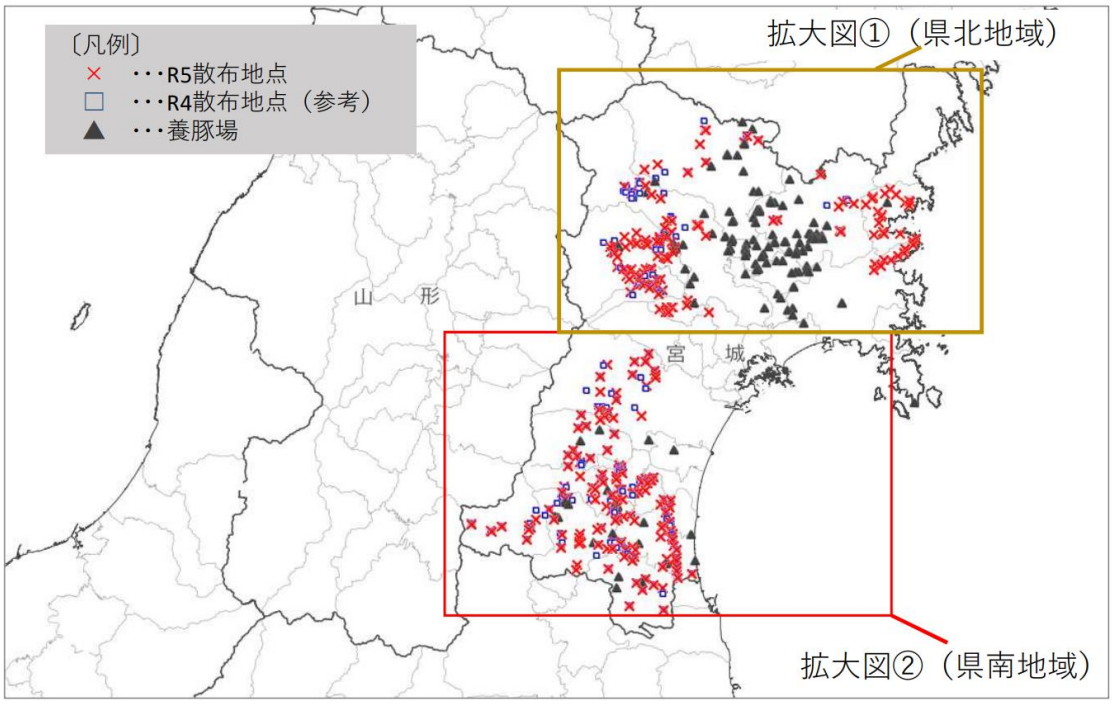
	陽性頭数	（検査頭数）	陽性率
死亡	56	(99)	56.6%
捕獲	188	1,320	14.2%
計	244	1,419	17.2%

令和６年８月８日
家畜防疫対策室

野生いのししにおける豚熱感染の拡大防止のための経口ワクチン散布

◇宮城県では、関係市町や県猟友会、畜産関係団体とともに令和３年10月20日に「宮城県豚熱経口ワクチン対策協議会」を設立し、豚熱ウイルスが野生いのししを介して養豚場周辺に拡散するリスクを低減させるため、野生いのししに対する豚熱経口ワクチンの散布を実施。

【宮城県】R5年度　経口ワクチン散布地点　広域図



〔R5年度　散布概要〕
・散布市町村　20市町村
・散布地点（累計）　718地点
・散布個数（累計）14,360個

〔R4年度　散布概要（参考）〕
・散布市町村　17市町
・散布地点（累計）　509地点
・散布個数（累計）10,180個

【参考】　野生イノシシにおける豚熱抗体検査結果

検査年度	検査地域	抗体陽性頭数 A	検査頭数 B	抗体陽性率(%) (A/B)×100
令和3年度	県北地域	20	98	20.4
	仙台	6	25	24.0
	県南地域	63	303	20.8
	計	89	426	20.9
令和4年度	県北地域	71	108	65.7
	仙台	9	21	42.9
	県南地域	115	236	48.7
	計	195	365	53.4
令和5年度	県北地域	73	141	51.8
	仙台	4	13	30.8
	県南地域	59	153	38.6
	計	136	307	44.3

令和６年８月８日
家畜防疫対策室

野生いのししにおけるアフリカ豚熱ウイルス侵入防止に向けた啓発活動

県関係課室、関係団体から海外旅行者、狩猟者、登山者向けの**啓発リーフレット**を配布又はホームページ掲載により発信しています。

【県関係課室】

農政部	家畜防疫対策室
	農山漁村なりわい課
環境生活部	自然保護課
経済商工観光部	観光戦略課
土木部	空港臨空地域課

【関係団体】

一般社団法人	宮城県猟友会
一般社団法人	宮城県畜産協会
公益社団法人	宮城県獣医師会